

南信州広域連合議会
全 員 協 議 会

令和5年2月28日

南信州広域連合事務局

南信州広域連合議会 全員協議会会議録

令和5年2月28日（火） 午前11時25分 開議

1. 開会
2. 議長あいさつ
3. 広域連合長あいさつ
4. 報告・協議事項
 - (1) リニア中央新幹線について
 - (2) ご当地ナンバープレートへの対応について
 - (3) 消防指令センター共同運用の検討について
 - (4) 令和4年消防統計について
 - (5) 令和5年度南信州広域連合議会の会議日程等について
5. 閉会

全 員 協 議 会

令和5年2月28日

南信州広域連合事務局

南信州広域連合議会 全員協議会

日 時 令和5年2月28日(火) 午前11時25分～午後0時02分
 場 所 エス・バード ホール
 出席者 河本議員、片桐議員、平澤議員、中森議員、後藤(章)議員、中島議員、
 熊谷(美)議員、後藤(和)議員、福沢(敏)議員、坂巻議員、宮澤議員、吉田議員、
 佐々木議員、栗生副議長、伊藤議員、三浦議員、岩口議員、小平議員、米山議員、
 大蔵議員、中平議員、清水(優)議員、福澤(克)議員、竹村議員、古川議員、
 木下議員、山崎議員、熊谷(泰)議員、新井議員、清水(勇)議員、永井議員、
 井坪議長、原議員、佐藤広域連合長、下平副広域連合長、岡田松川町副町長、
 壬生高森町長、勝野阿南町長、熊谷阿智村長、西川平谷村長、大久保根羽村長、
 金田下條村長、清水売木村長、永嶺天龍村長、横前泰阜村長、市瀬喬木村長、
 熊谷大鹿村長、高田副管理者、
 吉川事務局長、小椋事務局次長兼総務課長、伊藤地域医療福祉連携課長、
 飯田環境センター事務長、有賀消防長、北澤消防次長兼総務課長、
 下平消防次長兼警防課長、新井警防課専門幹、吉田予防課長
 伊藤書記長、野牧事務局総務課広域振興係長、松澤事務局総務課庶務係
 平沢事務局専門主査、岡庭町村会事務局長

1. 開 会
2. 議長あいさつ
3. 広域連合長あいさつ
4. 報告・協議事項

No	項 目 名	資料	頁
1	リニア中央新幹線について …資料による説明(吉川事務局長)	1	6
2	ご当地ナンバープレートへの対応について …資料による説明(吉川事務局長)	2	9
3	消防指令センター共同運用の検討について …資料による説明(新井警防課専門幹)	3	11
4	令和4年消防統計について …資料による説明(下平消防次長兼警防課長)	4	12

No	項 目 名	資料	頁
5	令和5年度南信州広域連合議会の会議日程等について …資料による説明（伊藤書記長）	5	13

5. 閉 会

1. 開 会

午前11時25分

(井坪議長) それでは、ただいまから全員協議会を開催いたします。

2. 議長あいさつ

(井坪議長) 開会に当たり、一言申し上げます。

先ほどは、定例会におきまして令和5年度の一般会計予算案が慎重な御審議の上で可決されまして、南信州広域連合の新年度のスタートの準備が整ったという次第でございます。

この1年がたって、昨年度、まあ昨年を思い起こせば、令和4年というのは国の内外ともに、この世紀にこんなことが起こるのかというような大事件が度重なった1年でございます。御承知のとおり、海外においては丸一年を迎えましたロシアのウクライナへの軍事侵攻、ロシアはウクライナの街を壊しただけでなく、戦後の国際社会が地道に築き上げた秩序と、私たちのふだんの暮らしまでも完全に破壊いたしました。また、国内においては元総理大臣が狙撃されて亡くなるという、これが日本で起きるのかというような、思った衝撃と驚きが日本中を駆け巡りまして、今もまだその余波が消えることはございません。

また、新型コロナの感染拡大は、それこそ新型のウイルスが次々と発生して、生活のあらゆる面に大きな影響を1年中与え続けました。

こうして、昨年を振り返りますと、国の内外で起きた事件であっても地方の私たちの政治や暮らしにも大きな影響を与えたことを思うと、新年度こそ穏やかな年であってほしいと願うとともに、本日成立した予算が有効に執行されることを期待するところでございます。

ところで、国会におきましても現在、新年度予算の審議が行われておりますけども、地方デジタル田園都市国家構想と名づけた地方創生に関する予算が盛られています、そんなさなかに、政府は東京23区の大学のデジタル人材を育成する学部の定員を増やす、いわゆる定員規制の緩和の方針が示されました。これは、地方での進学を促す法律に逆行するものであり、大学の設置を悲願とする南信州地域にとっても大変危惧される問題です。

こうした政府の姿勢からは、やはりこれも政府の呼びかけによります地方創生が声高に叫ばれ続けて、はや9年が過ぎようとしておりますけれども、その中でも、うたわれました「まち・ひと・しごと」はどれ一つ取っても、いまだその成果をなかなか実感できないのが地方に住む私たちです。

私たち地方から見ると、国においては、現場である地方にもっと目を向けて、社会全体から国民の側にある課題を知ることによって、国民との連帯ができる政治であってほしいと願う次第であります。かくなる上は、国でもなく県でもなく、また永田町でもなく、住んでいる地域に根を張って生きる私たち市町村で政治に関わる我々が、これまで以上に暮らしの課題を掘り下げて、その解決に携わらんとする気概を持ち、そのためにこそ、政治がある。そのためにこそ、議会が機能すると地方から立ち上がる気概を持ちたいものです。

以上、全協の開会に当たっての私からのあいさつといたします。

3. 広域連合長あいさつ

(井坪議長) 次に、広域連合長からのごあいさつを、ぜひお願いします。

佐藤広域連合長。

(佐藤広域連合長) ただいま、井坪議長から、大所高所からのごあいさつがありました。それに、お答えできるだけの準備はないんですけれども。

一点、大学の設置について、これまで23区において、そういうデジタル人材育成に関する定員の増は認めないという方針を政府が出していたのを翻して、23区においてもそういった人材の育成のための定員増を認める、そういった政府の方針が出された。この件について、どういうふうに捉えるべきかということで、少しお話をさせていただきたいと思いますが、大きな視点で見たときに、短期的なデジタル人材が足りないということで、これまでできるだけ地方にということ saying the government's policy is shaky. It seems to be like that, so such a decision, I think, but on the other hand, Shizuoka University, we are aiming for Shizuoka University as a national university, and the evaluation as a national university, in terms of cooperation with the region, in terms of cooperation with the region, other national universities have higher evaluations, etc.

何が申し上げたいかというと、デジタル人材育成の定員の動きというのはそういうことではあるんですけども、信州大学の大きな目指している方向性としては地域との連携を深めることによって、国立大学の中で、地方大学の中でさらに評価を高めていきたい、そういう方針を持っているというふうに私は認識をしています。したがって、信州大学として、これからどういうふうにグランドデザインを描いていくかという中では、地域との連携というのは引き続き中核に据えられることだと思いますし、そういった中で、この今、大学の空白地帯である南信州地域が将来、リニアが開通し、世界や全国との行き来が非常にしやすくなる、そういう研究環境・学習環境としてのポテンシャルを考えたときに、私は必ずや、信州大学としてのここへの新学部設置というのはグランドデザインの中に入ってくるものと理解をしています。ですので、国の大きなデジタル人材の方針については違和感を持つものでありますが、一方で、そのような信州大学としての大きな方向性については、私は信じておりますので、引き続きしっかり、大学の新学部誘致については取り組んでいきたいと思っております。

議員各位にも引き続き誘致協議会の一員として、一緒に歩んでいただきたいというふうに申し上げて、全協の挨拶になっているか分かりませんが、一言申し上げます。ありがとうございました。

4. 報告・協議事項

(1) リニア中央新幹線について

(井坪議長) それでは、報告・協議事項に移ります。

初めに、リニア中央新幹線についてを議題といたします。

執行機関側の説明を求めます。

吉川事務局長。

(吉川事務局長) それでは、リニア中央新幹線の動きについて報告をさせていただきます。

資料の順番は前後いたしますけれども、資料ナンバー1-4を御覧いただきたいと存じます。

昨年12月21日にリニア中央新幹線事業に係る関係市町村長とJR東海との意見交換会が開催されました。これは、県リニア整備推進局が毎年開催しているものでございまして、昨日、公式記録が県のほうから公開されましたので、急遽、資料に追加をさせていただきます。

内容につきましては、意見交換のテーマ別に整理がされておりますので、発言の順番とはいささか順番が異なっておりますけれども、分かりやすく整理されているということで御理解をいただければというふうに思います。

冒頭のあいさつといたしまして、県のリニア整備推進局長、それから広域連合長、続いてJR東海の副社長さんからそれぞれごあいさつがありまして、意見交換に入ってまいったということでございます。以降、発言要旨としてテーマ別に整理がされております。3ページのところからですけれども、懸案事項への対応といたしましては、環境保全対策に関するもの。それから、4ページに行きまして、発生土に関するもの。5ページに行きまして、工事車両の運行及び安全対策に関するもの。6ページ、静岡工区及び開業時期について、労働災害への安全対策、市町村業務における課題。7ページですけれども、地元とのコミュニケーションということで地元への対応、情報提供関係。それから、8ページではその他ということで、9ページには意見交換会におけるJR東海からの回答を踏まえてさらに御意見があったということで、それぞれ整理がされておりますので、詳細につきましては、資料を御覧いただければなというふうに思います。

続いて、資料ナンバー1-1を御覧いただきたいと存じます。昨年12月22日に、リニア中央新幹線長野県駅、仮称でございますけれども、安全祈願・起工式が行われました。資料といたしまして、当日の写真とJR東海が当日の資料として公開いたしました長野県駅のイメージ図をお付けしてございますので御確認をいただければというふうに思います。

続いて、資料ナンバー1-2を御覧いただきたいと存じます。2月10日に、リニア中央新幹線建設促進飯伊地区期成同盟会が三遠南信道の期成同盟会と合わせて開催をされました。資料は当日承認された総会決議でございます。すみません、(案)の字が残ってしまっておりますけれども、よろしく願いいたします。申し訳ありません。地域として適切な工事監理をJR東海に求めながら、リニア中央新幹線の早期開業を目指すことが確認がされております。

続いて、資料ナンバー1-3を御覧いただきたいと存じます。同じく2月10日でございますけれども、リニア中央新幹線整備効果を地域振興に活かす伊那谷自治体会議が開催されました。お付けしておりますのは、当日の会議資料でございます。

まず最初のページですけれども、会議の次第でございまして、当日の会議の内容は主に協議事項といたしまして2点、伊那谷の強みを活かした重点的な取組について、それから企業誘致の今後の進め方についてということが協議事項がございまして、あと、報告事項といたしまして3点、リニア長野県駅(仮称)の駅前空間の検討状況について、リニア長野県駅の広域的な利活用検討の進め方について、これは飯田市から説明があったところでございます。報告事項の3番、戦略的チャレンジの成果・課題・今後の方向性についてということで、これは事務局から説明があった事項でございます。

資料をおめぐりいただきまして、資料のページで3ページ目でございますけれども、伊那谷の目指す方向性や重点的に取り組むべきことに関する主な意見ということで、こ

これは会議に先立ちまして、事務局で参加者から意見を聴取して整理をした資料でございます。伊那谷の目指す方向性や地域特性、広域的に重点的に取り組むべき事項というのが整理されておりまして、次のページ、資料ナンバー1-2と書いてありますけれども、4ページ目でございますけれども、その聞き取りをもとに、今後の取組への大きな二つの方向性というものを整理したものが伊那谷の強みを活かした重点的な取組についてのたたき台ということございまして、大きく二つの方向性に整理がされておるところでございます。一つは、持続可能な環境共生先進地域づくり、取組例といたしまして具体的な取組が記載されております。それからもう一つの大きな方向性が、豊かな自然環境と独自の文化などを活用した教育・学びの先進地域づくりということで、同じく取組例が記載されております。この大きな2つの方向性について当日提案があって、確認・承認がされたというのが、このときの会議の大きな内容であったかなと思っております。

続いて、5ページ以降の資料ナンバー1-3でございますけれども、この大きな二つの方向性に関しまして、現在取り組まれている取組を事務局のほうで整理をしていただいたものが資料として提出されたという内容でございます。内容は御覧いただければと思います。

続いて、資料の7ページ、資料ナンバー2という肩のところに書いてございますけれども、こちらは、県の産業労働部から説明があった事項でございまして、戦略的チャレンジということに取り組んでいるわけでございますけれども、その企業誘致関係の一部修正をしたいということで提案があって承認がされたという、そういう資料でございます。現行では、グローバル企業の本社・中枢機能の立地促進という記載になっておりますけれども、こちらを修正案のところの1番目のポツですけれども、グローバル経済圏で活動する企業のサテライトオフィス誘致やフルリモートで勤務する社員の誘致、括弧といたしまして、二拠点移住だとか移住促進ということで、こういった表現に変えていきたいということで提案されて、承認がされたということでございます。

「目指す姿」でございますけれども、ここにありますように、クリエイティブ人材や高度IT人材のはたらく場を創出、国内外から若者が次々集まるまちをつくるということで、取組といたしまして、最先端デジタル社会実現事業ということで県として取り組んでいきたいという提案がされておるところでございます。

その次のページ、8ページ目でございますけれども、そのデジタル社会実現事業というものを具体的に説明をいただいた資料でございます。資料そのものは御覧いただきたいと存じますけれども、右上のところには図がございまして、こちらの説明の中で新幹線の開業効果ということで、以前は松本に非常に立地が多かったIT関係の企業が、東信だとか長野地域に集積が進んだと、そういった経験をもとに、リニア中央新幹線の開業に伴いまして、今後、南信地域は非常に伸びしろがある地域だということで、非常に県としても力を入れていきたいと、そういう説明があったところでございます。

続いて、次の資料でございます。9ページ、資料ナンバー4につきましては、これは飯田市から説明がございましたリニア駅前広場における魅力発信の検討体系ということで、そのイメージ図が提案をされ、説明がされたということございました。駅前広場活用検討会議という会議を設置して、ここを中心に検討を進めていくというそういう内容でございます。

それから次のページでございますけれども、ページでいいますと10ページ、リニア

駅を基点とした交通関係の検討体系ということで、こちらも同じく飯田市から説明がありました。リニア駅アクセス検討会議という会議を設置をして検討を進めていくということでございます。こちらについては、広域連合といたしましても、公共交通の協議会を持っておりますので、非常に深く関わっていくことになるのかなというふうに思っておりますけれども、そういった資料でございます。

続いて、資料ナンバー5ということで、ページ数ですと11ページ以降でございますけれども、こちらは戦略的チャレンジの成果・課題・今後の方向性ということで、現在の取組状況を整理いただいて示していただいたというそういう資料になってございます。説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

(井坪議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(井坪議長) なければ、説明のございました、リニア中央新幹線については、聞きおくことといたします。

(2) ご当地ナンバープレートへの対応について

(井坪議長) 次に、(2) ご当地ナンバープレートへの対応についてを議題といたします。

執行機関側の説明を求めます。

吉川事務局長。

(吉川事務局長) それでは、資料ナンバー2番目の項目、ご当地ナンバープレートへの対応について説明をさせていただきます。

この件につきましては、11月30日の広域議会全員協議会でも説明をさせていただいたほか、構成市町村の各議会でも説明をいただき取組を進めてきたところでございます。昨年8月に第1回目の住民アンケートをお願いいたしまして、その結果をもとに広域連合としての取組方針を確認いたしまして、ご当地ナンバー創設推進協議会の設立や県知事に対して要望書を提出するなどの取組を行ってまいったところでございます。

続いて、1月下旬に第2回目の住民アンケートと事業者向けアンケートの発送をいたしました。本日はその集計結果を御報告させていただくとともに、今後の取組について説明をさせていただきたいと思っております。

資料ナンバー2を御覧いただきたいと存じます。第2回のご当地ナンバー導入に関するアンケートの調査結果の確定値ということで、御覧いただきたいと思っております。調査目的については、記載のとおりでございます。調査方法は飯田下伊那地域に在住しておられる16歳から75歳までの住民の方、無作為抽出をお願いをしたという経過でございます。調査人数は2万706人という方をお願いいたしまして、今回は郵送によりまして依頼をいたしまして、はがきでご回答いただくか、あるいはインターネットでのご回答ができるというようなことで取組をいたしました。調査結果については御覧のとおりでございます。まず、回収状況でございますけれども、回答数は8,689ということで、はがきによるものが6,556名の方、インターネット・ウェブ上で回答していただいた方が2,133人ということでございました。回答率といたしますと42%ということで、8月の調査は34.71%でございましたので、そのときの調査と比べると7ポイント強、回答率自身は上がったかなと思っております。市町村別の回答数は、その以下下の部分の表のとおりでございます。下のほうの合計の上に市町村名の「不

明」という欄がございますけれども、これは回答いただいたんですけれども、市町村名の記載がなかった回答ということで69という数字が記載してございます。

次のページでございますけれども、4の集計結果でございますけれども、設問の1「ご当地ナンバーとして、「南信州ナンバー」を導入することに賛成ですか」という御質問に関しまして、賛成と回答していただいた方が全体では68.8%、反対というふうに回答していただいた方が30.3%という結果でございました。賛否の未記入の方が0.9%いらっしゃったということでございます。その下のところが、市町村別の状況でございます。同じく縦罫のところは賛成・反対の右側に「未記入」というふうな欄がございますけれども、こちらは回答いただいたのですけれども、賛否については記載がなかった方が全部で82名いらっしゃったということでございます。下の合計欄と大鹿村の間にある「不明」につきましては、市町村名の記載がなかったということでございます。それぞれ市町村別の数値、御確認いただきたいと思っておりますけれども、一番高いところでは81%の方が賛成と、最も低いところでも62.6%の方が賛成ということで、いずれの市町村においても賛成の方が多数派という結果になったのかなと考えているところでございます。

3ページ目でございます。男女別の数字を記載してございます。この件については、男女において大きな回答の差はなかったのかなというふうに認識をしております。次に、年代別ということで、年代別に数値を記載してございます。年齢層が高くなるほど、賛成の率は高くなる傾向にあるのかなというふうに認識をしております。ただ、一番低い10代の方もどちらかという賛成の方が多という状況かなと思っております。

その次の(2)設問『図柄入りの「南信州ナンバープレート」に取り入れたいイラストについてのご意見』ということで、これは導入が決まった場合、今回のご当地ナンバーの募集は必ず地域版の図柄入りナンバープレートの設定をなささいという、そういう制度となっておりますので、少し気が早かったかもしれませんが、導入が決まった場合に図柄入りナンバープレートに入れたいモチーフのようなものを書いてくださいという、そういう趣旨の設問でございました。御意見とすれば、個別はたくさんあるわけでございますけれども、大分類といたしましては、この地域の特産物であるくだもの関係、それから山、民俗芸能・伝統工芸、それから川、星、名所・観光地、その他ということで、全部で327通のワードを御提案いただいたという、そういう状況でございます。

続きまして、4ページ目でございますけれども、これと並行いたしまして、事業者の皆様向けのアンケートも実施をしております。こちらにつきましては、サンプル数が少ないということで、あくまでも参考値ということで御確認をいただければと思っております。調査の対象は飯田下伊那に所在する事業者ということで、全部で500事業者の皆さんにお願いをいたしましたということで、こちらにつきましては、郵送で依頼をしておりますけれども、全てインターネットで回答をいただくということでお願いしたものでございます。調査時期は、住民アンケートと同じ時期でございます。回収状況につきましては177人というか、177社ということだと思いますけれども御回答をいただいて、回答率については35.4%ということで若干、住民アンケートよりは低い回収率であったということでございました。回答結果につきましては、賛成と答

えていただいた方は60.5%、反対というふうに答えていただいた方が39.5%ということでございます。一応、市町村別に依頼数を記載してございます。こちらの数につきましては、商工団体に登録されている会員数に比例をする形で依頼をさせていただいたということで、無作為抽出ではございますけれども、数そのものは市町村別に登録団体の数で比例するような形で依頼をしたという内容でございます。賛成割合については、住民の皆さんのアンケートよりは若干低い数値となったという結果でございました。

続きまして、今後のスケジュールについて口頭で若干説明させていただきたいと思えます。

ご当地ナンバーの導入の判断に必要なのは、各関係市町村の合意でございます。広域連合とすればそういった面の権限といいますか判断をすることはできませんので、あくまでも各市町村の合意判断ということが必要となってまいります。明日3月1日から15日にかけて開催を予定されております各市町村議会の全員協議会などで、執行機関側よりアンケート調査の結果や合意の判断等について説明をいただく予定となっております。ご当地ナンバーの導入の合意についての判断は、地方自治法第96条に規定する議決事件には該当しませんので、議決事件・事項にはなりませんけれども、自治体にとって重要な判断であるというふうに考えております。つきましては、それぞれの議会において十分な質疑をいただきまして、議員各位の御意見を表明いただき、議会としての意思というものを示していただきたいというふうに考えておるところでございます。

各市町村の合意をいただければ、3月17日に開催を予定しています南信州ご当地ナンバー創設推進協議会にそれを報告いたしまして、御意見をいただいた上で、その後、開催されます広域連合会議で申請手続を行う旨の確認を行ってまいりたいと考えております。説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

(井坪議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(井坪議長) なければ、説明のございました、ご当地ナンバープレートへの対応については、聞きおくことといたします。

(3) 消防指令センター共同運用の検討について

(井坪議長) 次に、(3) 消防指令センター共同運用の検討についてを議題といたします。

執行機関側の説明を求めます。

新井警防課専門幹。

(新井警防課専門幹) それでは、消防指令センター共同運用の検討について、中間報告させていただきます。資料ナンバー3を御覧ください。

本日は、共同指令センターによる効果について、新たに追加した事項、費用負担方法について、運営方式について、今後の方向性について御説明させていただきます。

初めに、共同指令センターによる効果について、(1) 住民サービスのLIVE119についてですが、11月の消防環境委員会において、議員から、119番通報時に、直接映像を利用した通報システムはないのか、との質疑があり再確認しましたが、現在、119番通報を直接利用した映像通報システムはございません。(2) の消防体制の基盤の強化につきましては、同じく両本部のネットワーク接続について質疑があり、両本部のネットワークを光回線で2回線確保することで冗長化を図ってまいりたいと思いま

す。

2ページを御覧ください。財政効果については、国の財政支援の活用について、木曾広域消防本部では過疎対策事業債についても検討するよう指示があり、現在、事務レベルで検討しております。2の費用の負担方法については、3ページに全国の先行事例について、按分方法の例について記載してあります。各市町村の費用負担の公平性を担保できる負担方法を検討することとしたいと思います。

3ページの3 運営方式については、表記のとおり、様々な共同処理制度がございますが、多くの消防本部で運営を行っている協議会及び事務委託について検討を進めていきます。

最後に、4ページの今後の方向性についてですが、令和5年8月までに共同運用の意思決定を行いたいと思います。それまでに、検討についてまとめができるように両消防本部で検討を進めていきたいと思います。説明は以上です。よろしくお願いいたします。

(井坪議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(井坪議長) なければ、説明のございました、消防指令センター共同運用の検討については、聞きおくこといたします。

(4) 令和4年消防統計について

(井坪議長) 次に、(4) 令和4年消防統計についてを議題といたします。

執行機関側の説明を求めます。

下平警防課長。

(下平警防課長) よろしくお願いたします。

それでは、資料ナンバー4を御覧ください。

令和4年「消防統計」の概要でございます。各表におきましては、火災救急救助の発生件数、またそれぞれの種別にかかる市町村別の発生件数を記載してございます。

初めに、火災件数は61件と前年より12件減少しまして、飯田広域消防統計開始の昭和62年以降最小件数でございます。一方、たき火等の起因する火災につきましては28件で、前年より2件増加しております。このうち、1月から4月に21件発生している状況でございます。

続きまして、救急出動件数につきましては7,735件で、前年より786件増加し、統計開始以降最多件数でございます。うち、コロナの疑似救急搬送件数につきましては、308件でございます。

続きまして、救助出動件数につきましては100件で、前年より11件増加しております。ヘリコプターの要請件数は5件で、4人を救助しております。

おめくりいただきまして、令和4年の消防統計、概要編につきましては、火災救急救助の主な特徴についてお示ししてございます。また、データ編につきましては、火災救急救助のデータをお示ししてございますので、御高覧いただきたいと存じます。

資料はございませんが、本日8時現在、火災の発生件数につきましては14件、昨年同期比の4件の減少。また、たき火火災の件数につきましては9件、昨年度同数となっております。明日3月1日から3月7日まで春の火災予防運動、また、明日3月1日から3月31日までの1か月間、たき火火災ゼロ運動を実施いたします。市町村、消防団、

関係機関の皆様と連携を取りまして、火災の抑制防止に向け防火意識の高揚を図ってまいりますので、御理解と御協力のほう、何とぞよろしく願いいたします。説明は以上でございます。

(井坪議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(井坪議長) なければ、説明のございました、令和4年消防統計については、聞きおくことといたします。

(5) 令和5年度南信州広域連合議会の会議日程等について

(井坪議長) 次に、(5) 令和5年度南信州広域連合議会の会議日程等についてを議題といたします。

書記長の説明を求めます。

伊藤書記長。

(伊藤書記長) 令和5年度南信州広域連合議会の会議日程等について、御説明いたします。

本日お配りいたしました資料ナンバー5を御覧ください。

初めに、来年度の本会議の日程でございますが、全員協議会、または臨時会の開催を5月29日と8月25日に予定しております。11月の第2回定例会は、11月13日から30日までの18日間、令和6年2月の第1回定例会は、2月14日から28日の15日間を予定しております。なお、11月定例会閉会日の日程が、事前にお送りしました資料から変更となっておりますので御留意ください。議場につきましては、エス・バードを予定しておりますが、事務センターで行われております新型コロナのワクチン接種の状況によりまして、開催場所を事務センターとすることも想定しております。

次に、議会運営委員会の日程でございますが、いずれも本会議の告示日に予定しております。日程は御覧のとおりでございます。

次に、常任委員会の日程でございますが、いずれも定例会の会期中に開催を予定しております。11月と2月ともに医療福祉委員会と消防環境委員会が同日の開催となり、午下が医療福祉委員会、午下が消防環境委員会となります。

最後に、議員視察研修の日程でございますが、10月16日から17日、10月24日から25日の日程で二グループに分かれて一泊二日の管外視察を予定しております。

新型コロナの感染症法上の分類が第2類相当から5類に引き下げる見通しとなりましたが、コロナ禍が一変する状況は想定しがたく、ウィズコロナの観点から本年度と同様の二グループでの実施を計画し、必要な予算を計上させていただいております。説明は以上です。

(井坪議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(井坪議長) なければ、説明のございました、令和5年度南信州広域連合議会の会議日程等については、御確認いただきますよう、お願いいたします。

5. 閉 会

(井坪議長) 以上をもちまして、全ての報告・協議事項は終了いたしました。

ただいま、来年度までの日程の報告がございましたけれども、今はまだ令和4年度で

ございます。今後、統一地方選挙や、あるいは議会によっては折り返しの構成などを迎えて、新たな局面を経て実質的に新しい年度が始まります。それまで皆さん、お元気で。以上をもちまして、全員協議会を終了いたします。御苦労さまでした。

閉 会 午後0時02分